

様式 13

### 会派視察研修計画書

令和 4年 1月25日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ  
代表者名 小池友妃子

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

|         |   |  |
|---------|---|--|
| 参加議員    | 小池 友妃子                                    |  |
| 日 時     | 令和 4年 1月31日（月）                            |  |
| 視 察 先   | ローカル・マニフェスト推進連盟 マニフェスト大賞実行委員会             |  |
| 研 修 内 容 | オンライン議会最前線 実践と可能性                         |  |
| 日 程     | 別紙参照のこと                                   |  |
| 交 通 手 段 | 公共交通機関利用<br>乗降車駅名（                      ） | 自家用車利用 _____ 台<br>所有者名（                      ） |

（議会事務局記入）

|         |       |
|---------|-------|
| 旅 費 の 額 | (内 訳) |
| 円       |       |

様式 1 4

## 会派視察研修報告書

令和4年2月15日

碧南市議会議長 様

会派名       みらいクラブ  
代表者名      小池友妃子  

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員   1  名分の視察研修成果報告書を添付いたします。

|                  |   |
|------------------|---|
| 参加議員             | 小池友妃子   |
| 日 時              | 令和4年1月31日（月）  |
| 視 察 先            | ZOOM  |
| 研 修 内 容          | オンライン議会最前線 実践と可能性 オンライン研修会  |
| 視察先面会者<br>又は講師名等 | ①早稲田大学名誉教授 元三重県知事 北川正恭氏<br>②法政大学総長 廣瀬克哉氏<br>③茨城県取手市議会議長 齋藤久代氏<br>④茨城県取手市議会事務局次長 岩崎弘宜氏<br>⑤滋賀県大津市議会局長 清水克士氏<br>⑥愛知県知立市議会議長 中野智基氏<br>⑦愛知県知立市議会DX推進PT座長 田中健氏 |
| 備 考              |   |

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

## 視察研修成果報告書

令和4年2月14日

議員氏名 小池友妃子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期 間                    令和4年1月31日（月）
- 2 視察先                    オンライン研修
- 3 視察の種類                会派視察（研修）

#### 4 視察の成果等

##### 『オンライン議会最前線 実践と可能性』

2020年に発症した新型コロナウイルス感染症は、私たち議員の議会活動にも大きな影響を与えています。碧南市だけではなく、多くの議会でも専決処分が多くなったり、一般質問のとりやめや制限などが今も尚続いています。

このような状況下の中でオンラインを活用する議会が一気に増えてきました。タブレット端末導入だけでなく、常任委員会や視察および研修をオンラインで行ったり、議会活動報告会もオンライン（ハイブリット方式）で開催する議会も出てきました。そこで、何故オンラインに取り組むのか。非常事態以外でも活用すべきか。さらに本会議でも可能なのか。先進事例の3市議会の取り組みを含め成果等報告させていただきます。

## 基調提起

「DXとデモテックで地方から・議会から変えていけ」

早稲田大学名誉教授・元三重県知事 北川正恭氏

現在動き始めているSociety5.0の世界に拍車をかけたのがコロナによるパンデミック。日常が壊されて非日常となり、議会でも集まることが義務化されていたのに集まれなくなり非常事態がやってきた。

議会によっては、執行部に迷惑をかけてはいけないと専決処分をやむなしとしたり、議会を短縮したりするところが出てきた。しかし、これは、議会というのは、二元代表制の議事機関であるから、議会が職場を放棄したことになるのではないかとおもう。

そこで、民意の代表である議会が議事機関として機能するためにリモート会議をやるという発想が今こそ非常に重要な時期なのではないか。しかし、この認識が非常に遅れているのが国会である。

1947年の自治法によって一步もそこから進まないという現状を地方議会から変えていくという研修会にしていきたい。これからは執行部に対する監視機能だけでなく、リモートで政策提言もする。その先進議会である3市議会の話聞き、いいところを真似して徹底的に実行していけるようにしていきたい。

※DX (Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション) とは、進化したIT技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念のこと

※デモテックとは、democracy(民主主義)+technology(テクノロジー)=demotech(デモテック)

## 基調講演

「討論の広場と議事機関としての議会とオンライン」

法政大学総長 廣瀬克哉氏

コロナ下でも議会活動ができなくなることはなさそうだと安心し、なかなか新しいことにチャレンジしようということに合意を得るのが難しいと思う。しかし、今だからこそ“本気の危機管理”が問われている。

いままも本会議場に定足数ギリギリの議員だけが残って、他の議員は控え室に行ってお中継を聞いているということをしているところもあると思う。

しかし危機管理とは？希望的観測の将来見投資で行動することは危機管理といえるのか？本当に議場に集まれなくなったときのことを想定して備える。その機会を今与えられている。

集まれないから審議ができないので専決処分に任せるといふ、議会の機能が停止してしまうというデメリットに比べて、若干質が劣るかもしれないけれどもオンラインで議員が審議にちゃんと参加をして疑問点を正していくこと大切。

今ならば試行錯誤する余裕が多少はあるし、習熟していく機会もある。そう、今やっておかないと将来困る時が来る。

さらに社会の様々なところで、オンラインで仕事をしている人たちがいる。だから、地方議会だけがそれはできないという言い訳は通用しにくくなってきている。

オンラインに習熟する努力をする意義として、参集して会議ができなくなる時でもよりよく会議ができるように今のうちから習熟する努力をしておくことが現時点で求められている。

先行事例を参考にし、まねをすることで同じレベルまですぐに追いつくことができる。

そしてオンラインの方が対面より良いこともある。そのことも先進自治体より学びまねをしていって欲しい。

最後に今は対面もできるので法整備を本気で進める時期でもある。出席がその場に行かないといけなくて解されているのは長が勝手にいっていること。だからオンラインで本会議をやってしまえば良いと思う。但し、実際に参集できる今なのに何故オンラインでやるのかという必然性はないと思う。むしろ誤りを正す機会をつくるべきだとおもう。

後もう一点、討論の議会としての議会の継続として考えることも必要。議会報告会をオンラインできちんとできていくことも問われていることも付け加えておく。議会活動を市民に対して発信していくことと市民と双方向で意見交換をすることをオンラインでちゃんと持てるような備えをしていくこともまた問われている。

いずれにしても危機管理としての位置づけ、そして議会のどんな機能を継続しなくてはいけないのかという観点から先行事例を参考に今こそ習熟しておくべき、今こそ法令上の問題を解決するための努力を本気でするのかということが重要となってくる。

## 実践報告

「デモテック前進！デジタルとオンラインで議会がかわる」

茨城県取手市議会議長 齋藤久代氏

茨城県取手市議会事務局次長 岩崎弘宜氏

デモテック ↓⇒ ICTを活用して新しい民主主義の創造

● 2020年4月7日 議長の決断！Zoomを用いること

\*初のコロナによる緊急事態宣言発出。災害対策会議が集まってできないことがきっかけ。

● 2020年7月 高市総務大臣に直接、意見書手交

「オンライン本会議の実現に必要な地方自治法改正を求める意見書」

\*総務大臣より、一つの自治体より意見書が出たからといって自治法が変わることはない。全国の議会から同じ意見書が提出されてはじめて国が変わるとアドバイスされた。

● 2020年8月 市議にタブレット貸与

\*統一のモノを導入。オンラインが苦手な議員も今はすっかり使いこなしている。ペーパーレスになり部屋も片付いた。検索機能抜群！

● 2020年8月 動く！デモテック戦略

\*特別委員会を設置。オンラインの本会議模擬を数多く実施し、問題抽出し解決。議論は場所ではないことが分かった。

● 2021年8月 「議会の中に住民がいる 住民の中に議会がある」

\*インターネットを介して、市民ライター（高校生含む）がインターネットを介して主体的に議会の様子を知ることができるようになった。

将来的には障がい者の雇用に発展させていきたい。

● 2021年9月 OLにAI字幕

\*ズームに字幕文字を導入。聴覚障害者の方への対応、より議会を開くための対応

● 2022年1月 360度カメラの活用

\*カメラ導入によりオンラインで傍聴する人が360度の角度でみるができる。

## 実践報告

「コロナと非常事態に備える！オンライン本会議実現へのミッションロードマップ」

滋賀県大津市議会局長 清水克氏氏

- 2020年8月25日感染症対応版議会BCPへの改定 議会運営委員会で決定
- オンライン本会議実現に係る法改正意見書の提出 本会議で議決

第一次 2020年6月16日

「オンライン本会議の実現に必要なとなる地方自治法改正を求める意見書」

第二次 2021年12月22日

「オンライン本会議の実現に必要なとなる地方自治法改正を求める意見書」

第三次 2021年6月30日総務大臣に直接手渡す

「オンライン本会議実現へ向けての 地方自治法改正要望書」

\*行って良かったのは総務大臣から返ってきた言葉が、地方議会で進めてくれたらいいよという言葉を受けたこと。

- 2021年1月29日オンライン議会の実証実験 模擬オンライン本会議

\*議場で151インチのTVでZOOMを活用して実施。何故かというところ49人まで一覧化できるから。議場で実施したのは完全オンラインでも、市民がどうしても傍聴したいと行ったときにソーシャルディスタンスを保ながら実施ができるから。あとは通常のインターネット設備を使ってそのまま記録に残せるから。採決はZOOMの挙手機能を使った。

- 2021年5月19日大津市議会委員会条例改正
- 2021年5月28日オンライン議会運営委員会実施

## 実践報告

「もっと市民に開いていく！議会DXの推進でチャンスロスをなくせ」

愛知県知立市議会議長 中野智基氏

愛知県知立市議会DX推進PT座長 田中健氏

- 平成22年12月 議会改革特別委員会を設置
- 平成24年2月 第1回議会報告会開催(参加者300名)
- 平成25年3月 議会基本条例を制定

- 令和元年 議会改革度ランキング全国27位
- 令和2年8月 議会のデジタル化に向けた タブレット導入決定
- 令和2年6月 議員報酬の特例条例（▲7.5%）
- 令和3年2月 ペーパーレス会議システム開始
- 令和3年4月 議会モニター制度開始
- 令和3年5月 オンライン議会報告会開催
- 令和3年8月 第1回高校生議会開催
- 令和3年11月 マニフェスト大賞優秀賞受2020年8月25日感

#### 【市議会のデジタル化】

- 平成28年10月 市議会だより編集委員会における調査 目的のための電子機器の使用許可（申合せ）
- 令和2年2月 「知立市議会におけるタブレット端末 及びスマートフォンの使用に係る運用基準」を制定 し、協議調整の場においてタブレット等電子機器（私物）の使用を許可
- 令和2年5月 コロナ禍で「書面・対面・接触」のリスクを回避する中で、「議論を止めない」、「公開を止めない」ために電子化・オンライン化の必要性が再認識される
- 令和2年7月 危機管理の一環として、オンライン会議システムを体験 ⇒会派室のパソコンを使用して、会派代表が事務局 とZoom会議を実施 ⇒後日、全員協議会でZoom会議を体験
- 令和2年8月 第121回議会改革特別委員会で、タブレットの導入が決定
- 令和2年9月 委員会条例の改正「開催の特例（オンライン会議）の追加」。議会BCPを補完する「知立市議会新型コロナウイルス感染症対応指針」を策定し、委員会オンライン開催のフローを明示。
- 令和3年1月 議会フロア無線LAN環境整備
- 令和3年2月 議会防災訓練と災害対策会議をオンラインで開催
- 令和3年2月 情報通信端末機器タブレットの導入、ペーパーレス会議システムの導入、グループウェアの導入
- 令和3年2月 「知立市議会情報通信機器運用基準」を策定し、3月定例会より



公式の会議で電子通信機器の運用を開始。議員、理事者共にペーパーレス会議が可能になった。1年間は試行期間として、紙資料も配布された。

- 令和3年5月 第35回議会報告会をオンラインで開催
- 令和3年8月 オンライン委員会運営要綱を策定
- 令和3年11月 第37回議会報告会をハイブリッド開催（会場とオンラインの同時開催）

#### 【研修を終えて】

オンラインの考えは様々、非常時のみのところもあれば、そうでもないところもあった。事務局はオンライン委員会をすると大変なのかと思ったら実はリアルよりも慣れると仕事量はかなり減るということがわかり、ますます取り入れていくことも考えていくべきではないかと感じました。

傍聴者への資料提供も、HP上添付でペーパーレスにした知立では、傍聴席にスクリーンを置き、そこで見せることもしていました。そうすると資料渡すより傍聴者が何ページを話しているのかがスクリーンを見ていればわかるので結果的に良い結果となっているということも聞き、傍聴者にとってもオンライン議会にして良かったという結果が出ているということでした。全てが慣れてきたからだと思いますが、これから取り入れていくであろう碧南市でも先進地の良いところを全てまねをしながら、さらにどこよりもより良く発展させていけるように全議員で協力していきたいと感じました。